Bunkazai Design Contest 2021

北海道の歴史文化を暮らしのグッズに

～北海道のストーリーを身近な人に伝えていこう～

審査結果発表

主催：NPO法人北海道遺産協議会

北海道遺産
Hokkaido Heritage

コンテスト実施概要

○応募総数

応募作品数：　５０作品

応募人数：　４２名

応募者について：　全国の１０代～７０代の幅広い世代からご応募あり

応募者職業等：　デザイナー、クリエイター、専門学校生、大学生、一般の方々など

○審査基準

文化財の魅力を伝えるもの ／ 独自性のあるもの ／ 商品力

○審査員／分野

＊伊藤　千織（伊藤千織デザイン事務所）　／ プロダクトデザイン

＊照井　康穂（株式会社照井康穂建築設計事務所）　／ 建築

＊平塚　智恵美（有限会社叶多プランニング）　／ 商品化、アートマネジメント

＊野村　ソウ（スタジオワンダー）　／ グラフィックデザイン

＊酒井　秀治（株式会社SS計画）　／ まちづくり、コミュニティデザイン

＊萩　　佑（NPO法人北海道遺産協議会）

北海道遺産
Hokkaido Heritage

審査員講評

照井　康穂（株式会社照井康穂建築設計事務所）

2020年度に続き本年度もコンテストを開催いただき、全国からのたくさんの素敵な作品に出会えたことに感謝します。受賞された作品からは、どれもトートバックをネタに会話が広がるシーンが思い浮かびほっこりしました。とりわけ入賞された吉田さんと丸山さんの作品はトートバックにした際のバランスが良く、特に間が絶妙で、幅広い方々にトートバックを手に取ってもらえる可能性が抜きん出ている。堂山さんの作品は、風景と一体となった遺産の素敵さをハッとさせられるほど感じられる魅力的な絵でしたが、その魅力を創り出している淡い表現がバックで活かせるのかが不明瞭で佳作となりました。このトートバックが身近なところから歴史文化の魅力を広げる一助となることに期待しています。

平塚　智恵美（有限会社叶多プランニング）

表現の独自性がある力作揃いに審査会が大いに沸きました。審査のポイントは「文化財の魅力を伝える、オリジナリティ、商品力」で配点を行い、それぞれ推しの意見を交わしながら選んでいった。委員票が高かった入賞の吉田未玲さんの「ハナシハナ咲ク北海道」は、表面に文化財が動物とともに楽しく配置され、裏面には松浦武四郎やクラークなど北海道ゆかりの人物などが美味しい文化財を食べている和やかな設定。
このバックを持って北海道遺産を宣伝して歩きたい作品だ。もう一点入賞の丸山直美さんの「流氷観光」は、表と裏がそれぞれ違う流氷と海が描かれ、片面に一隻の赤いガリンコ号が流氷の合間を縫って進んでいる。まさに冬の北海道遺産。色のコントラストがまばゆく、観光客にも喜ばれそうだ。共にバッグになって登場するのが楽しみだ。今後も文化財が暮らしに根付くグッズコンテストになるよう期待したい。

野村　ソウ（スタジオワンダー）

今年は「歴史文化の魅力を広げる自由なデザイン」をキャッチコピーに告知がされました。昨年よりも大胆なデザインや面白い視点のデザインが集まったと思います。募集テーマを考慮した際に、吉田さんの「ハナシハナ咲く北海道」は表現性やアイデアが高得点で、個人的にも人と熊がいる面が特にキャッチーで目を引くと感じました。
堂山さんの「タウシュベツ川橋梁と景色」も商品化された際の細部の表現で気になる点がありましたが色彩の良さに惹かれるものがありました。
プロダクト化された際の商品力が審査の焦点のひとつになりましので 、審査後の商品が どう北海道遺産を広げるのかも、とても楽しみです。

伊藤　千織（伊藤千織デザイン事務所）

第2回となる今回は、北海道らしい普遍的な自然やモチーフを基にそれぞれの作家が新たな解釈や視点を加えてアウトプットする、という知的なデザイン変換を試みた作品が多かったように思います。その中で上位入選作品は、限られた画面の中にシンプル・ストレート・大らかに表現された、色鮮やかな作品が集まりました。
泣く泣く選外となった作品にも、実際に使ったら素敵そうな魅力的なデザインや、緻密な労作も多く、応募されたすべての皆さまに改めて心から感謝を申し上げます。

酒井　秀治（株式会社SS計画）

受賞された皆さま、おめでとうございます。受賞作以外にもたくさんの魅力的な提案があり、選定するのに本当に悩みました。入賞作数を増やしてもっと多くのトートバッグをつくれないか事務局に求めましたがやはり難しく、、、他の審査員の方々との長時間の議論の末での結果です。最終的な選定の決め手として一つ言えることは、「商品力のあるもの」への向き合い方です。自分の内なるおもいの表現化の先に、それが商品として一般のお店に置かれた時に手に取りたくなる、持ち歩く時に気分が少しあがるようなワクワク感を発しているか、そのシーンを具体的にイメージしようとすることが大切だと思います。
このコンテストを通じて北海道遺産にこれだけ多くのデザイナーさんが関心を寄せてくれたこと自体がまず意義あることですが、商品化されたグッズをとにかく多くの方に購入して使ってもらいたいです。他の事業もあわせて収益性を担保しながらこのコンテストを継続する仕組みづくりにつなげることを期待します。また、地域に遺産を守り継承していく人・活動があることが北海道遺産の重要な価値です。コンテストの先に地域の担い手とデザイナーさんをマッチングして協働できるような展開も構想してほしいです。主催者側の皆さまよろしくお願いします。

萩　佑（NPO法人北海道遺産協議会）

2シーズン目となり、対象範囲が昨年度の札幌市内の文化財から北海道全域へと広がった今年のコンテストでしたが、入選作品はもちろん、どの応募作品からも北海道遺産の新たな見方・伝え方を感じることができ、楽しく審査をさせていただきました。このコンテストが北海道遺産、北海道の魅力の発信につながることを期待するとともに、全国各地から多くのご応募をいただいたことに感謝申し上げます。

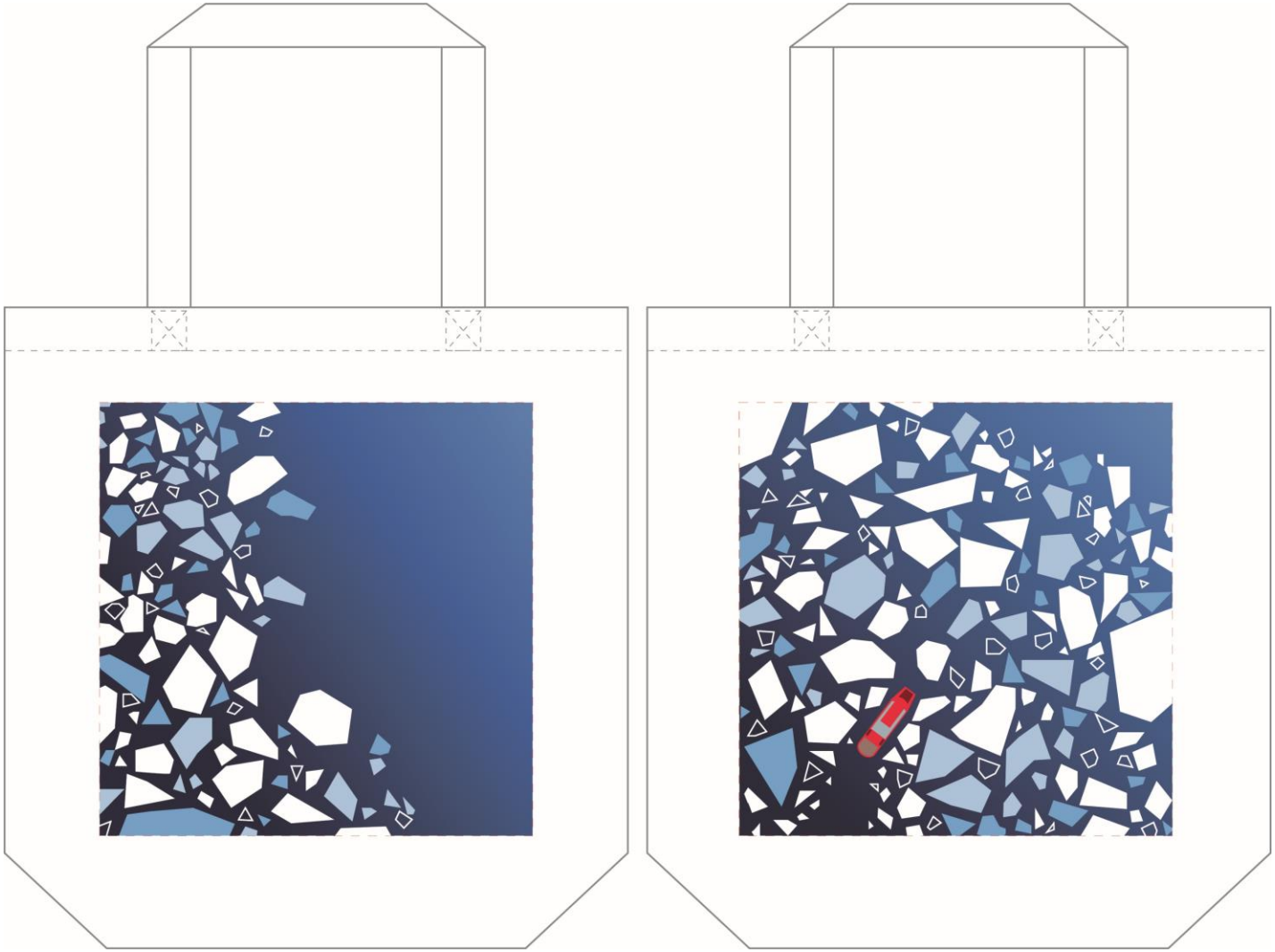
入賞

吉田　未玲「ハナシハナ咲ク北海道」

トートバッグ

吉田　未玲「ハナシハナ咲ク北海道」

入賞



丸山　直美「流氷観光」

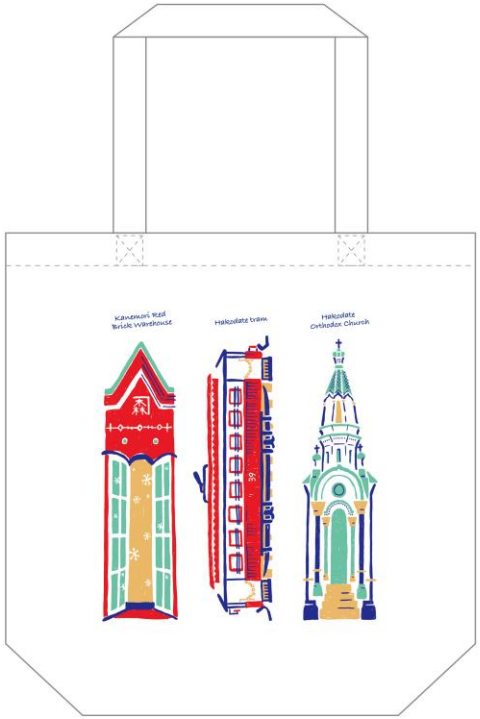
トートバッグ

吉田　未玲「ハナシハナ咲ク北海道」

佳作

堂山　詩世「タウシュベツ川橋梁と景色」

入選

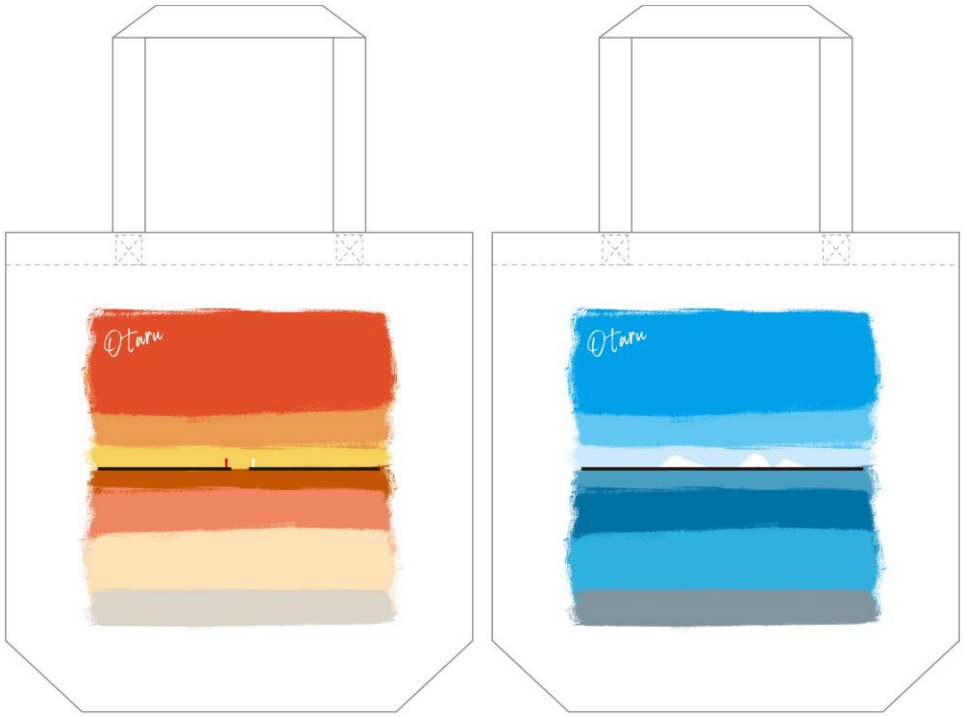


冨樫　直美（株式会社workup）
「函館の街並み」

村上　智彦
「新巻鮭の木箱に印刷されるグラフィックを
活用したトートバッグのデザイン」

入選

北村　友莉
「大地の学び」



櫻井　和則
「Otaru Sea」